

VII 編集後記

「浜の真砂は尽きるとも、・・・」という言葉は、国内ばかりか世界中に当てはまりそうなこのごろの情勢である。世界中いたるところで、ひっきりなしに事件や戦争が起き、瞬時に世界を駆けまわるため、外国で起きていることとは思えないほど身近に感じる。一昔前まで、筆者もグローバル化が意識され始めた30~40年ほど前には、国際経済学が教える「要素価格均等の法則」が働き、先進国が達成した経済水準がやがて新興国にもいきわたり、グローバル化とか輸出志向工業化は一国主義や輸入代替化よりいい結果を生むのではないかと漠然かつ単純に考えていた。いまやASEAN、二国間・多国間のFTA、TPP、APECから、さらに最近話題になっているRCEP(東アジア包括的経済連携協定)、などなど、いまや世界もアジア・太平洋地域も、地域共同体に向かってまっしぐらである。それらが地域の人々の福祉や平和につながることを祈るばかりである。

さて、今回のe-Magazine第12号も多彩な論考が集まり、どれも興味深いものばかりである。特に、関心の高い中国の政治動向や習近平国家主席の考え方、方針、などを北京大学の梁雲祥教授にお願いして、書いて世界経済の流れの中で、論理的な考察を加えたものである。人間の予測能力はそれほど高くないため、説得力のある仮説として、理

いただいた。読んでいただければわかるように、中国の政治や経済の動きを知るうえで、大変興味ある話であり、われわれ日本人にとって大いに役立つ内容である。

坂田氏に書いていただいた、ベトナムでの滞在経験に基づく、興味ある論考は、昨年12月にわが研究所で講演していただいたものを記録したものである。ベトナム人がどのような考え方をしているか、その生活ぶりはどうか、など滞在しなければわからない話を詳しく書いていただいた。面白い内容で、思わず読んでしまいます。

ミャンマーの論考は最近、筆者がミャンマーを訪問して感じたことなどを中心に最新動向、と言っても、ものすごい勢いと速度で変化しつつあるミャンマーの最新動向を把握するのは難しいが、可能な限り最新の動向を論理的に解明しようとしたものである。

今回の「ニュースの裏を読む」はアジアに関する表面的なニュースは新聞でもテレビや雑誌でも、いくらでも目にする機会はあるが、それらを全体として、包括的にどう把握すればいいのか、という観点からアジアの経済発展を中心に、今起つつあることと、将来起きるであろうことについて、世解されることを期待し、同時に批判的かつ建設的なコメントを期待する次第である。それぞれの論考に関する内容はぜひ皆さん

IAM e-Magazine

2015年3月15日発行

特定非営利活動法人アジア近代化研究所 (IAM)

自身で読んで、確認していただき、さらに関心をお持ちの方は、筆者に直接お聞きいただければ幸いです。また、本マガジンへの投稿は自由なので、どなたでも自由にご投

稿いただきたい。詳しいことは、わが研究所まで問い合わせていただければ幸いです。
(朽木)